

エシカルな  
取組紹介

02

# Change the future

“里山の豊かなコミュニティを持続させるために”

自然農園 空土ファーム 松原 努さん

## 茂木町に移住して約20年

2005年に就農支援を受けて、ここ茂木町にやって来ました。ご覧の通り、山と山に囲まれた谷のような小さな集落です。住まいとして紹介してもらった家の後ろには、よねさんというおばあちゃんが一人で住んでいました。よねさんが受け入れてくれたおかげで、私たち夫婦がこちらに移住してから約20年。この町で産まれた子ども達も高1と中3になりました。毎朝カーテンを開けると、朝日が田畑を照らし、素晴らしい景色が広がります。自然に囲まれ恵まれた環境の中、安心安全な野菜を自分の手でつくる—そんな贅沢な日々を過ごしています。



自家製の大根や人参を加工。干すことで栄養がアップします。



お野菜セットは、S(7~9品)とM(8~10品)の2タイプ。手書きのお手紙があたたかい。

## 有機野菜との出会い

私は三重県松阪市の出身で、大学進学で東京に出てきました。実は子どもの頃からアレルギー体質で肌トラブルがあったため、一人暮らしをきっかけに食に気を遣うようになりました。体は食べるものでできていると感じ、たどり着いたのが、“有機野菜”でした。

有機栽培農家さんで野菜づくりの手伝いをするようになると、土に触れることで心が落ち着くことに気付きました。また、まだまだマイナーだった有機野菜をつくっている人たちは、志を高くもち、目標に向かって邁進する素敵な方たちばかりで、非常に刺激を受けました。こうした有機野菜と農家さんとの出会いをきっかけに、野菜づくりの仕事をするようになりました。

## マルシェとサブスクで ファンづくり

有機栽培の野菜は、大量生産には向いていません。一度にたくさん量は確保できませんし、なにより価格競争に負けてしまいます。そこで、そのとき採れる旬の野菜を少しずつセットにした、サブスクサービスを行っています。一箱に数種類の野菜や加工品、妻が書いたお便りを1枚入れて送ります。季節のご挨拶と野菜をイラストで説明、簡単なレシピもご紹介していて大変好評をいただいています。

結局、たくさんの選択肢から選んでもらうには、空土ファームのファンになってもらうことだと思っています。マルシェなどで有機野菜の魅力と価値を感じてもらい、定期便で常においしさを感じてもらう。こうした地道な方法で、少しずつ輪を広げていくことが大切だと思っています。



受け入れてくれた

ご恩を返す

私には茂木町に移住を受け入れてもらったご恩がありますので、地域のためになることは積極的に関わりたいと考えています。

たとえば、保育園や小学校での読み聞かせボランティアなどの食育活動を行っています。また、子どもや高齢者、障がい者や引きこもりがちな若者の就労支援など、誰もが「農」に親しむことのできるユニバーサル農業を目指しています。豊かな里山の環境とそれを支えるコミュニティを、私にできることで精いっぱい応援したい。それが恩返しだと思って、日々活動しています。



この一面が松原さんの畑。軽トラで向かいます。



厳しい寒さの中、ビニールの中で育つたくましい野菜。

買うことで

未来を選択している

私は、買うことは投票だと思っています。あなたが何かを選んで買うとき、その選んだものを応援することになります。例えば同じ大根だとしても、その背景はひとつひとつまったく違うものです。大根ならなんでもいいでしょうか？その大根は誰が、どんな想いで作った大根でしょうか？

あなたが選んだその一票が、私たちの未来を少しずつ変えていきます。ぜひ作り手の想いやその環境を知って選んでください。あなたが大切だと思うもの、価値を感じているもの、本当に未来に残していきたいものを選んで、応援してください。それが私の思う、エシカル消費です。



「森と里のつながるマルシェ」というイベントを主宰し、定期的開催。



大切な家族のうめちゃんとパチリ。